様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１０１０７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６４６３４８１

研究課題名（和文）看護系大学の在宅看護分野における看護技術教育コアカリキュラムの構築と評価

研究課題名（英文）construction and evaluation of core curriculum of nursing technological education in home nursing field of nursing universities

研究代表者
照井　レナ（Terui, Rena）

旭川医科大学・医学部・客員教授

研究者番号：３０４３３１３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、看護学士課程における在宅看護技術教育コアカリキュラムの構築と評価に向け、在宅看護コアコンピテンシーを明確化するため、以下4調査を行った。各回収数（回収率）は、①学士課程在学生の訪問看護へのイメージと就職希望調査：2,150名（60.3%）、卒業時到達度調査として、②在宅看護学以外の教員：86名（28.1%）、③病院（一般病院の看護部長）：199名（35.7%）、④訪問看護事業所（所長）：125名（49.8%）であった。
今後、本研究のホームページ「Research Education Network Art　在宅看護学 研究・教育・実践の推進者たち」において成果の周知をしていく。

研究成果の学術的意義や社会的意義
①看護学基礎教育における卒業時到達度、社会的要請を受けての在宅看護コアコンピテンシーが明確化される。②在宅看護コアコンピテンシーは、在宅看護技術に限らず、講義科目、演習科目においても涵養すべき能力となる。③シミュレーション教育や客観的臨床能力試験（以下、OSCE）、e-learningなど学生の主体的な学修を促す方法を試験的に用い、その評価を通して教育方法の見直しが可能になる。④研究ステップそのものが、少数である在宅看護学分野の教員のネットワーク化を可能にする。⑤在宅看護技術教育コアカリキュラムが構築・発信されることにより、我が国の学士課程において汎用性高く用いられるカリキュラムとなる。

研究成果の概要（英文）：In this research, the following four surveys were conducted in order to clarify the core nursing home competencies as basic data on the construction and evaluation of core curriculum of nursing technological education in undergraduate course. The results of the survey response rate is as follows: 1)the image of students and employment-related preference and request of the students on the visiting nursing, 2)the degree of achievement by staff-members not majoring in home care nursing who hope on the education of home care nursing at graduation, 3)that by directors-general hospitals of the nursing department, 4)that by directors home-visit nursing service , 60.3%, 28.1%, 35.7% and 49.8%, respectively.
All results of them are being presently analyzed, but in future sequently the results of this research will be released on the network on "Research Education Network Art: Home nursing: Promoters of research, education and practice (URL: https://zaitakukango.net)".

研究分野：在宅看護学

キーワード：コアカリキュラム　コアコンピテンシー　在宅看護学　看護技術教育　看護基礎教育　訪問看護

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

1. 研究開始当初の背景

看護技術教育は看護学教育の中でも重要な学修要素であり、看護基礎教育である学士課程でも熱心に取り組まれている。看護技術教育の最終目標は、看護実践の場で患者・在宅療養者の状況に合わせた技術の提供ができるといった、看護実践能力につながる技術教育であるといえる。

在宅看護では、療養者の居宅において、あらゆる年代･疾患･療養状況･家族形態に対応して看護を提供するという場やケアの特徴から､看護者には高い応用性と柔軟な発想･対応が求められる。 このような現場の事情から、在宅看護学実習において学生が経験する内容は必然的に高度になり、看護技術の経験水準は見学が中心とならざるを得ない。学生だけではなく、訪問看護師への道のりも「少なくとも 3 年の臨床経験がなければ務まらない」などが通説で、新卒は非常に稀である。しかし、訪問看護師の不足や役割期待などの社会的要請から、2013 年 8 月、「平成二十五年（暫定版）新卒訪問看護師育成プログラム運用における学習支援マニュアル」が千葉県看護協会、千葉大学看護学研究科が共同開発され、新卒訪問看護師の育成も端緒が開かれた。

一方、学士課程において、在宅看護学は何を教育すべきであろうか。指定規則改正により在宅 看護学は「統合分野」の位置づけとなり、卒業までに学生の能力を積みあげ、教育と臨床のギャップを埋める「臨床の実践に近い環境での看護」の具現化を迫られている。しかし、在宅看護学分野において、学生が経験する技術の種類や到達水準は、なお各大学のカリキュラムおよび教員数、指導体制によって様々である。かつ、それらが分野の内外で議論を成熟させた結果のカリキュラムなのかは不明である。ここに、在宅看護学のコアコンピテンシーを明確化し、汎用性の高いコアカリキュラムを構築する意義がある。在宅看護学教育の課題について長江らは[1)]、「教育の質向上のため大学全体で協議される必要性」「コア科目で教授する内容の共通理解や学生の卒業時到達レベルを明確にする必要性」を挙げている。この報告以外に、看護基礎教育を踏まえた 在宅看護コアコンピテンシーやコアカリキュラムの必要性に言及した研究は極めて乏しいのが現 状で、携わる専任教員でさえ戸惑いながら教授している現状といっても過言ではない。

申請者らは、「高い実践力を備えた看護職の育成」に向けた学生･ 訪問看護師双方から在宅看護 技術の経験および臨地指導に関する基礎調査（平成 21 年度の札幌市立大学学術奨励研究）[2)]、平成 23 年度から現在までは、在宅看護学分野の技術教育について、卒業時までに到達すべき水準を 明確化し、臨地実習における技術指導および目標達成に向けた臨床指導の方法を検討する研究（科学研究費助成研究・研究課題番号：23593447）に取り組んでいる。前者の調査結果から、大学で 教授している技術項目ならびに到達度と、臨地実習の指導者が想定している学生の看護技術の水準に格差があり、学生の実習に出る際のレディネスを高める必要性とならびに臨地指導者と大学との技術指導に関する連携を強化する必要性が示唆された。また、後者の調査結果は現在解析中であるが、印象として、統合科目変更後は教員体制の整備や授業時間の確保など、在宅看護教育の環境整備は進んでいる反面、教授内容や技術項目、到達目標に関する大学間の差異が著しく、在宅看護学の体系化について試行錯誤の状態である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学士課程における在宅看護コアコンピテンシーの明確化とそれに基づく在宅看護技術教育コアカリキュラムの構築・評価である。

本研究の予想される結果と意義は、①看護学基礎教育における卒業時到達度、社会的要請を受けての在宅看護コアコンピテンシーが明確化される。　②在宅看護コアコンピテンシーは、在宅看護技術に限らず、概論などの講義科目、援助論などの演習科目においても涵養すべき能力となる。 ③実践能力を高めるとされるシミュレーション教育や客観的臨床能力試験(以下、OSCE)、e-learning など学生の主体的な学修を促す方法を試験的に用い、その評価を通して教育方法の見直しが可能になる。　④研究のステップそのものが、少数である在宅看護学分野の教員をネットワーク化し、他大学の教員との情報交換を可能にする。⑤在宅看護技術教育コアカリキュラムが構築・発信されることにより、学士課程において汎用性高く用いられるカリキュラムとなる。

3. 研究の方法

1）在宅看護分野に望まれる卒業時到達度に関する調査

（1）調査対象：

①学生の在宅看護分野へのイメージと就職希望調査：北海道内看護学士課程 13 校の全学生 3,918 名

②他領域看護教員が考える到達度調査：北海道内看護学士課程 13 校に所属する助教以上の教員 365 名

③病院（全道の一般病院の看護部長）が望む卒業時到達度調査：北海道庁・病院リストより 557 名

④訪問看護事業所（所長）が望む学生の卒時到達度調査：北海道訪問看護ステーション連絡協議会会員 253 名

なお、訪問看護事業所が学生に望む卒業時到達度については、申請者らの科学研究費助

成研究（研究課題番号：23593447）の結果を一部用いる。

（2）調査項目：

①学生：属性、在宅関連科目の受講の有無、訪問看護に対するイメージ、訪問看護ステーションへの就職希望など

②教員：回答者の属性、大学の属性、卒業時到達度 6 群 25 項目など

③病院：回答者の属性、病院の属性、卒業時到達度 6 群 25 項目、新人 1 年目看護師が退院支援を行うことについての意見など

④訪問看護事業所：回答者の属性、事業所の属性、卒業時到達度 6 群 25 項目、新人訪問看護師の雇用経験・意見など

（3）調査方法：

大学、施設、団体の長または責任者に説明後、同意後配布し、回収は郵送または回収ボックスで行った（個別投函）。

（4）分析方法：

統計解析ソフトを用いた記述統計の算出、クロス集計、 因子分析、クラスター分析。

テキストデータについては、質的統合法（KJ 法）を用いた。

（5）倫理的配慮

研究者所属の倫理委員会の承認を得たのち、研究協力大学の所属長の諾否を確認した。承諾が得られた場合は、実施の手続きを確認し、必要な場合は研究協力者の所属する大学の倫理委員会の承認を得てから実施した。

アンケート調査は、無記名回答とし、調査票の回収ボックスへの投函あるいは返送をもって研究の同意が得られたものとし、得られた全データの厳重管理、結果公表における個人名や施設・大学名の匿名性の確保について文書で説明した。

2）コアコンピテンシーの抽出と構造化

本研究においては、「在宅看護コアコンピテンシー」を、Hammel.G.ら[3]の定義を参考に、「看護系大学の学士課程卒業時に、在宅看護学において習得すべき特徴的能力」と操作的に定義する。

国際看護師協会の看護師の能力の枠組[4]や、「看護学教育の在り方に関する検討会報告書」（文部科学省）で示された「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」の枠組[6]で示された枠組みを基盤とする。１）の調査結果、申請者らの平成 23～25 年度科学研究費助成研究（研究課題番号：23593447）結果で、国内外の Home healthcare nursing 教育やコアコンピテンシーに関する既存文献、学士課程のシラバスなどをもとに、研究代表者・分担者がブレインストーミングし、その定性データから内容の抽出と構造化を行う。

3）現行の在宅看護技術科目の評価

構築したコアカリキュラム案との比較検証のため、これまでどおりの在宅看護技術カリキュラムを評価する。研究代表者・分担者の所属する学士課程の当該学年生を対象として実施する。在宅看護技術教育コアカリキュラム案の検証と修正 学士課程１校、1 技術での検証を行う。コアカリキュラムの評価は、OSCE、学生の授業評価などを用い、主にスループット要素[6]で行う。評価項目、評価基準の妥当性とコアコンピテンシーとの一致性を検証する。

4）確定版）在宅看護技術教育コアカリキュラムの構築と発信

確定版）在宅看護技術教育コアカリキュラムを構築する。周知は、研究論文作成、在宅看護学のテキストなどへの反映、ホームページでの紹介、看護系学会において交流集会を企画し、全国の在宅看護教員との意見交換を行うなど、本コアカリキュラムの利活用を促す。

4. 研究成果

平成 30 年 6 月にパブリックコメントを経て日本看護系大学協議会から出された「看護学士教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」の 6 群 25 項目をも とに質問紙を作成し、在宅看護学領域以外の大学教員、一般病院看護部長、訪問看護ステーションの所長が望む在宅看護学教育で達成期待する内容を調査した。 回収数（回収率）は、大学教員が 86 名（28.1%）、一般病院看護部長は 199 名（35.7%）、訪問看護ステーション所長は 125 名（49.8%）であった。同時に、看護 学生の訪問看護に対するイメージと就職希望との関連性を明らかにし、将来訪問看護師になることに対して関心を持てるような働きかけの検討を目的とした「看 護学生の訪問看護へのイメージと就職希望に関する調査」を行った。回収数（回収率）は、2,150 名（60.3%）であった。いずれも在分析中であるが、文献的な考察も含め、在宅看護分野における看護技術教育コアカリキュラムの提案をする。 また、本研究により開設したホームページ「Research Education Network Art　在宅看護学　―研究・教育・実践の推進者たち―（URL：https://zaitakukango.net）」により、本研究の成果の周知をしていく。

＜引用文献＞

1）長江弘子、谷垣静子、統合分野におかれた在宅看護学の教育カリキュラムに関する現状と課題に関する研究報告書、2008、53-54

2）菊地ひろみ、照井レナ、スーディ神崎和代、在宅看護学実習における学生の基礎看護技術経験状況と臨地実習指導の諸要因、札幌市立大学研究論文集、2011
3）Hammel.G.＆Prahalad.C.（著）、一条和生（訳）、コアコンピタンス経営、日本経済新聞社、1991
4）国際看護師協会（編）、日本看護協会（訳）、ジェネラリスト・ナースの国際能力規準フレームワーク、インターナショナルナーシングレビュー、29(3)、2006、109-119
5）近藤潤子、小山眞理子訳；看護教育カリキュラムその作成過程、医学書院、1992

5. 主な発表論文等
〔その他〕
ホームページ等
名称：Research Education Network Art －在宅看護学 研究・教育・実践の推進者たち－
URL: https://zaitaku-kango.net/

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：青柳 道子

ローマ字氏名：Aoyanagi, Michiko

所属研究機関名：北海道大学

部局名：保健科学研究院

職名：講師

研究者番号（8桁）：30405675

研究分担者氏名：上田 泉

ローマ字氏名： Ueda, Izumi

所属研究機関名：札幌医科大学

部局名：保健医療学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：90431311

研究分担者氏名：川添 恵理子

ローマ字氏名：Kawazoe, Eriko

所属研究機関名：北海道医療大学

部局名：看護福祉学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：50550315

研究分担者氏名：菊地 ひろみ

ローマ字氏名：Kikuchi, Hiromi

所属研究機関名：札幌市立大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：80433134

研究分担者氏名：鹿内 あずさ

ローマ字氏名：Shikanai, Azusa

所属研究機関名：北海道文教大学

部局名：人間科学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：50382502

研究分担者氏名：竹生　礼子
ローマ字氏名：Takeu, Reiko
所属研究機関名：北海道医療大学
部局名：看護福祉学部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：80433431

研究分担者氏名：山田　咲恵
ローマ字氏名：Yamada, Sakie
所属研究機関名：旭川医科大学
部局名：医学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：80791269

(2)研究協力者
研究協力者氏名：岡田　尚美
ローマ字氏名：Okada, Naomi

研究協力者氏名：川村　真澄
ローマ字氏名：Kawamura, Masumi

研究協力者氏名：長内　さゆり
ローマ字氏名：Osanai, Sayuri

研究協力者氏名：佐々木　雅彦
ローマ字氏名：Sasaki, Masahiko

研究協力者氏名：藤本　清美
ローマ字氏名：Fujimoto, Kiyomi

研究協力者氏名：渡邊　友香
ローマ字氏名：Watanabe, Yuka

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。